

(別添 2)

米朝枠組み合意における IAEA の役割・活動と当時の争点

争点	<ul style="list-style-type: none">・ 監視に用いるテクニック：北朝鮮は、封じ込め / 監視カメラの設置等の措置は容認したが、放射化学研究所での液体廃棄物の計量・組成の調査及び抽出されたプルトニウムの総量を見積るための計量等の措置を取ることを拒否。使用済燃料はステンレス製容器（キャニスター）内で密封され貯蔵プールで保管されるため、密封後にこれらの計量措置を実施するためにはキャニスターを再度開封する必要がある。よって、計量措置は密封前に実施される必要がある。・ 監視対象施設の保存されるべき情報：業務（トランザクション）、技術レポート、運転記録、・ 監視対象施設内での新たな活動：北朝鮮は、5MW(e)黒鉛減速炉の燃料の装填・取出し用機械、完成間近の 50MW(e)黒鉛減速炉のために製造された大量の黒鉛や他の核関連装置など、凍結対象になっている施設に設置されることになっている装置の説明を拒否。また黒鉛の品質検査も拒否。
凍結対象施設	<ul style="list-style-type: none">・ 5MW(e)黒鉛減速炉（寧辺）・ 核燃料加工工場（寧辺）・ 放射化学研究所（再処理施設）（寧辺）・ 建設中の 50MW(e)黒鉛減速炉（寧辺）・ 建設中の 200MW(e)黒鉛減速炉（泰川：テチョン）
使用済燃料の処置	<ul style="list-style-type: none">・ ステンレス製容器（キャニスター）に入れ、使用済燃料用プールで保管。・ キャニスター内には、アルゴンガスと少量の酸素を注入し、密閉。・ 漏れを生じたキャニスターは、全て新たなものに入れ替え、再度封印。・ プルトニウムの量に関する情報につながるような計量は一切拒否された。・ 使用済燃料が実際に照射されたものかを検認するための計量は実施。・ キャニスターへの缶詰作業は、1996 年 4 月末～1999 年半ばでほぼ完了。2000 年 6 月 29 日、クリントン大統領はキャニスターへの缶詰作業が完了したと議会で証言。

(情報ソース) David Albright and Kevin O'Neill, ed., Solving the North Korean Nuclear Puzzle, The Institute for Science and International Security, Washington D.C., 2000.